

**みやぎNPO夢ファンド(C) スタートアップ支援プログラム
平成22年度助成事業 最終報告書**

書式 4

2011年 5月 3日

団体名	介護者応援ネットワークみやぎ
事業名	地域で介護者の交流会（介護者の集い）を組織・運営する人材の養成と介護者の集いの開催

助成金を使って行った事業について、ご記入ください。

(事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)

1、「介護者サポート基礎セミナー」(計2日間)

会場：仙台市戦災復興記念館(7月3日・24日)、雲上寺(塩竈市、8月22日・9月5日)

参加者：会員および一般、参加費1日500円、会員は無料)

本セミナーは、介護者の交流や情報交換の場(介護者の集い)を各地域で開催・運営する人材育成を目的とした。

カリキュラムの内容は、①介護保険制度の基本事項を学ぶ、②現行の介護保険制度の中で介護者の置かれた状況と心情を通して、介護者サポートの必要性を学ぶ、③介護者サポート活動の現状と課題を学ぶ、④傾聴の基本的スキルを学ぶ、⑤「介護者の集い」の擬似体験、というものである。以下、参考までに仙台市戦災復興記念館でのタイム・スケジュールをあげる。

第1日(10:00~16:00)

- ①10:00~12:00 介護の基礎知識(介護保険等の基礎知識)
講師：真籠しのぶ(東松島地域包括支援センター長)
- ②13:30~15:00 介護する家族の想い
講師：本村昌文(介護者応援ネットワークみやぎ代表)
- ③15:00~16:00 参加者交流・座談会

第2日(10:00~16:00)

- ①10:00~12:00 介護者サポートの現状と課題
講師：牧野史子
(NPO法人介護者サポートネットワークセンターアラジン理事長)
- ②13:30~15:00 傾聴の基本と実践
講師：森山英子(仙台傾聴の会代表)
- ③15:00~16:00 参加者交流・座談会

参加者は7月3日が21名、24日が26名、のべ47名。8月22日が25名、9月5日が20名、のべ45名。

お昼休みには介護関係の企業や団体を招いて、活動紹介および情報提供を行った。参加団体は、7月3日(株式会社エス・エム・エス、クーシュの会)、24日(日本ケア・カウンセリング協会、地域生活支援オレンジねっと)、8月22日(クーシュの会)、9月5日(フォーレスト在宅支援ステーション)。

参加者からは、自分の知らない様々な介護の知識・情報を得ることができた、貴重な学びの場だったという趣旨の感想を多くいただいた。またこれをきっかけに何か活動をはじめたい、また介護関係のイベントに積極的に開催してほしいという声が多かった。岩沼市、柴田町、丸森町で介護者サポート活動をしている方々が参加され、各地域での取り組みの現状、情報交換を行うことができた。

助成金を使って行った事業について、ご記入ください。(続き)

2、「介護者サポート実践セミナー」(1日)

会場：仙台市戦災復興記念館(9月12日)

参加者：会員および一般(参加費500円、会員は無料)

協賛：日本ケア・カウンセリング協会

本セミナーは、日本ケア・カウンセリング協会の協賛のもと、介護者の集いを開催するために必要不可欠なコミュニケーションスキルの方法とその会得を目的として開催した。

カリキュラムは2つのセミナーから構成されている。内容は、①「ケアする人」をケアするという人間関係の理論を学ぶ、②ワークを通して、「ケアする人」をケアする具体的な方法を学ぶ、というものである。

①10:00～12:00 ケア・カウンセリング入門—援助的人間関係の構築に向けて!—

講師：品川博二氏(日本ケア・カウンセリング協会代表理事)

②13:30～16:30 コミュニケーションスキルのワーク

参加者は43名。お昼休みにはランチタイムセミナーを開催した。参加団体は、介護保険外のサービスを提供する株式会社アオバヤ・ダスキンホームインステッド。

②のセミナーは、参加者が6名ないし7名くらいのグループになり、2つのワークを行った。

ワークを通して、「人との関わりあうことで、人生の新たなストーリー(物語)を作り出す」ことの大切さを認識した。1対1で話をするだけでなく、何人か集まって、介護について話す場(介護者の集い)を作り出すことに意味があると再確認した。

多くの参加者から、こうした企画をまた行ってほしいという要望をいただいた。

3、地域での「介護者の集い」の開催

11月30日(火)10:00～12:00

場所：みんなの茶の間 ときめきカフェ 参加費無料

共催：地域生活支援オレンジねっと

参加者は17名。現役の家族介護者、介護経験者、介護職の方など多彩なメンバーが集い、さまざまな情報や経験が交差する貴重な空間ができあがった。

1月22日(土)14:30～17:00

場所：中田市民センター 参加費無料

参加者は5名。介護者が日々の介護で酷使している身体を癒す方法を学ぶため、和ヨーガの講師(三品智美氏)にご参加いただき、和ヨーガ体験を1時間半行い、その後に参加者での座談会を実施した。

ただテーブルを囲んで話をするだけでなく、身体を動かし、参加者同士でスキンシップをとることで(和ヨーガの中に二人ペアで行うものがある)、座談の場でもリラックスでき、話はずむという効果があることを確認した。

また通常の介護者の集いを実施している場所(青葉区二日町)や、各種イベントをしている文化施設(戦災復興記念館など)には、なかなか足を運べない県南在住の方が参加され、各地域で集まる場をつくりだすことの大切さを確認した。

助成金を使って行った事業について、ご記入ください。(続き)

【アンケート集計結果】

1、介護者サポート基礎セミナー（仙台市）
回収枚数：7月3日（9枚）、7月24日（14枚）

◆セミナー内容について
・大変良かった（13名） ・良かった（7名）

◆感想
・初めての事ばかりで驚くような情報がたくさんありました。これから介護の仕事をはじめるので、どのようになりたいのか方向性が見えてきた気がします。
・関わりのある NPO やボランティア団体、企業紹介という時間の活用法があることを学びました。
・私にとっては学びの場でした。とても貴重な時間で、また色々なセミナーに参加したいと思います。

2、介護者サポート基礎セミナー（塩竈市）
回収枚数：8月22日（15枚）、9月5日（12枚）

◆セミナー内容について
・大変良かった（12名） ・良かった（14名） ・普通（1名）

◆感想
・各方面からの介護のあり方を聞かせていただき、良い1日を過ごしました。
・座談会での話し合いが大変良かったです。色々参考になりました。
・午前中のお話は難しかったです。傾聴の話は初めてのことで大変参考になりました。

3、介護者サポート実践セミナー
回収枚数：22枚

◆セミナー内容について
・大変良かった（16名） ・良かった（4名）

◆感想
・大変刺激になりました。また機会があったら参加したいと思います。今後生きていくことに前向きになれそうです。
・新しい世界を見たと思いました。常に？（疑問）と！（驚き）を持っていたいと思う私がいました。
・午前中の講演はたいへん興味深くわかりやすく楽しかったです。また午後のワークも参加型で退屈することなく、いろいろな方々の体験談も聞くことができ、充実したセミナーでした。お話は難しかったです。
・本日のセミナーは中身の濃い、これからの自分に対しても、とても参考になりました。また自分だけにとどめておくのはもったいない、もっとまわりにも発信しなければと感じました。

助成金を使って行った事業について、ご記入ください。(続き)

【セミナーの様子】



基礎セミナー風景（7月24日）。

牧野史子氏のセミナー。東京をはじめ、全国各地の介護者サポート活動の現状および課題に言及。参加者に「介護者をケアする」ことの重要性と意義を理解してもらうための時間。



基礎セミナー風景（7月24日）

座談会の様子。参加者を6、7人のグループにわけて、「介護者の集い」の疑似体験をすることが目的。介護職の方、家族介護者、介護者サポート活動をしている方、これから介護の仕事に携わる方など、多様なメンバーによる座談により、介護の現状と介護者サポート活動について、問題意識を深めることができた。



基礎セミナー風景（8月22日）

ランチタイムセミナーの様子。基礎セミナー、実践セミナーのいずれにも、お昼休みの時間を使い、介護に関する活動を行っている団体や企業に情報提供やPRを行っていただいた。

写真は、クーシュの会による最新の尿吸引ロボのデモンストレーション。最先端の排泄ケアの情報に、参加者は大きな刺激を受けた。

助成金を使って行った事業について、ご記入ください。(続き)

実践セミナー風景 (9月12日)



日本ケア・カウンセリング協会の協賛のもとに開催。品川博二代表理事の講演の様子。

私たちの抱く「ケア」の常識を次々に覆し、新たな見方を提供する刺激に満ちた講演であった。

実践セミナー風景 (9月12日)



午後の参加者によるワークの様子。

「肯定メッセージ」をはじめ、コミュニケーションのあり方を実際に体験する機会を通して、「ケア」の基本となるよりよい人間関係について学んだ。

6～7名の座談による「介護者の集い」の開催を目指す当団体にとって、たいへん有益なワークであった。

今回の事業によって、団体の活動や地域社会にどのような成果・効果がありましたか。

- ①当団体の活動や趣旨に賛同され、会員となってくださる個人・団体が増えた。(個人会員 10名→20名、団体会員 0→2)。
- ②介護者サポート基礎セミナーの実施を通して、これまで見過ごされがちであった「介護する人へのケア」の重要性を広めることができた。とくに県外の先進的な介護者サポート活動の実態を知ることによって、自分たちの住む地域の課題を実感することができた。
- ③介護に関心のあるさまざまな方々が集まる場をつくることで、孤立しがちな家族介護者へ必要な情報と精神的な支えを提供することができた。
- ④青葉区二日町、泉区南光台、太白区中田、塩竈市と県内の異なる地域で事業を実施したことにより、地域ごとのニーズの違いや課題、また自治体の介護保険制度の運用の相違などが明らかになり、近視眼的な地域密着の限界と課題を浮き彫りにすることができた。
- ⑤すでに「介護者サポート活動」を実践している方々の参加もあり、類似の活動をしている団体とのネットワークを形成することができた。

今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか。

また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか。

- ①介護者の集いをはじめ、各種事業を担う人材不足。

今回の助成金を受けて、これまで青葉区二日町のみで行ってきた介護者の集いの他の地域へ拡大し、新規事業(基礎セミナー、実践セミナー)を実施した。その結果、各種事業を担う人材不足という課題が明らかになった。とくに介護者サポートの趣旨を理解し、一つの事業を担当できるような人材の育成と確保が急務である。

こうした課題解決のためには、当団体のみで各地域に介護者の集いを実施していくことには限界があるため、こうした活動に関心がある有志者を募り、その方々が自分の住む地域で中心となって集いの場を作り出していく仕組みを明確に築くことが必要である。今回の助成で実施した基礎セミナーが本来その役割を担うものであり、次年度以降はこのような目的をより明確にして開催していくことで課題の解決を目指したい。

- ②各種団体との連携

今回の助成金による各事業で、他の団体との連携をして開催する機会を得た。一般に各団体との「連携」の必要性が連呼されているが、実際に連携をすることで、双方の団体にプラスとなる「連携」のあり方を確立していくことが課題となった。

こうした課題の解決のためには、「自分たちの団体の弱さと限界」を自覚していることが、よりよい「連携」をつくるカギとなることがわかり、今後の事業にいかしていきたいと考えている。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか。

また、その際に必要なものは何ですか。

●介護者サポート基礎セミナーの充実と人材の発掘

介護者の集いを各地域で実施していくために、今回の反省をふまえて「介護者サポート基礎セミナー」を充実させ、地域で介護者の集いを担うという強い志をもった方々を発掘し、その開催のサポートを行う。

こうした今後の展開を実現していくためには、当団体の活動趣旨や事業を広く社会に広める情報発信力・広報活動が必要である。またそのための資金確保も欠かせない。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	200,000	200,000	
会費	20,000	20,000	10名×2,000円
基礎セミナー資料代	40,000	27,000	54名×500円
実践セミナー資料代	25,000	11,000	22名×500円
団体資金	0	17,348	
合計	285,000	275,348	

支出の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
会場費	55,000	46,230	戦災復興記念館（7月、9月）、中田市民センター（1月）
講師謝礼	90,000	100,000	
講師交通費	30,000	62,000	東京－仙台新幹線往復（2名分）、盛岡－塩竈新幹線・在来線（1名）、仙台－塩竈（1名）
事務用品費	30,000	26,163	コピー用紙、封筒、ラベルなど
印刷費	55,000	260	
通信費	25,000	39,360	
雑費	0	1,335	ゴミ袋、講師用飲料水
合計	285,000	275,348	

寄付をいただいた方へのメッセージをどうぞ

このたび貴重な夢ファンド助成金をいただき、「介護者を支える」という活動の意義と大切さを普及させることができました。今回の事業を通して、これからの活動を展開していく上での手応えと課題を得ました。これらはこの助成金なくしては、得ることができなかった貴重な財産です。今後、さらなる発展を目指して、活動を展開させていきたいと思っております。このような貴重な機会を、より多くの団体に提供できるように、夢ファンドのさらなる充実を祈念しております。